

		(ご自身の取組等を通じて)	(計画に関するご意見など)
		○現在取り組まれている活動の概要や、活動を通じて感じられている地域福祉の課題等について、御意見や御提案を自由記載願います。	○今後、県の役割や市町村の取組、計画に盛り込むべき事項、現行計画に関することなど御意見や御提案を自由記載願います。
1	伊藤 由紀子	<p>《活動概要》 2007年より松本市の指定管理を受け、児童館・児童センター、児童クラブを運営。2016年7月県のモデル事業信州こどもカフェ「なみカフェ」を立ち上げ、子どもの居場所に取り組む。2018年9月住民主体のみんなのおうち「集い場ふらっと」の立ち上げに関与し、住民の困りごとを住民が支える取り組みに着手。2021年4月より運営をNPO法人ワーカーズコープに切り替え、住民の居場所を継続、現在に至る。</p> <p>《地域福祉の課題》 上記の活動を通して見えてくることは、支援制度に頼ることのできない小さな支援を必要としている住民の存在。誰にも相談できないと感じている住民。など、見える困窮だけではなく、見えづらい困窮を感じている。「集い場ふらっと」においてもスタッフ不足で応えきれない。</p>	重層的支援事業の取り組みは、末端での支援の充実に繋がると思う
2	亀井 智泉	<p>障害児、とくに医療的ケア児等医療の手助けを必要とする子どもたちの医療・福祉・保育・教育をつなぎ、命を守り、成長発達と自立を支援する仕組みづくりのお手伝いをしています。</p> <p>医療的ケア児については法律や医療的ケア児等支援センターができたことで連携のありようが見えてきましたが、最近では視覚障がい児への支援について眼科医療・小児医療と福祉や教育の連携が薄いことと、子どものためのリハビリテーションが施設・医療機関に頼りがちであるところに課題を感じています。地域リハビリテーションがすべての年齢層の障がいある人に浸透してほしいと思います。</p>	地域生活におけるリハビリテーションの実態把握。子どもたちや若年の障がい者のリハビリテーションのニーズと支援の実態を可視化していただきたい。また、それに見合った人材の育成や求められているリハビリ分野の明確化など。県全体のリハビリテーションの計画がないのをずっと疑問に感じています。リハビリは医療なのか？福祉なのか？そこから教えていただきたいです。

<p>(ご自身の取組等を通じて)</p> <p>○現在取り組まれている活動の概要や、活動を通じて感じられている地域福祉の課題等について、御意見や御提案を自由記載願います。</p>	<p>(計画に関するご意見など)</p> <p>○今後、県の役割や市町村の取組、計画に盛り込むべき事項、現行計画に関することなど御意見や御提案を自由記載願います。</p>	
<p>3 小池 邦子</p>	<p>私は、花工房福祉会の障がい者就労支援事業所で日々障がい者とともに生活を送っています。法人の理念は、「ともに生き・ともに暮らす」です。その理念を障がい者にも分かりやすく3本の柱を作りました。「いきるしあわせ・はたらくよろこび・地域といっしょに」として日々の活動を実践しています。</p> <p>事業所は、毎日元気に通って来る障がい者の居場所としての役割を担い、一方通って来る障がい者の特性を活かして活躍できる場即ち出番を作っていくが支援員の役割です。こんな活動の場に3年前から発症したコロナ感染症は大きな影響をもたらしました。当たり前に出ていたものができなくなり戸惑いました。</p> <p>そんな中目を向けたのが地域といっしょの柱です。農福連携・企業連携そして地域連携です。少しずつ障がい者理解もひろまり。障がい者の労働力にも注目してもらえ順調に推移してきています。また、地元の民生児童委員の皆様は障がい者の実態を知っていただく機会をいただいたり、学生の体験実習の場を提供したりと動き出しています。より多くの方々に、状況を知ってもらうから始めないことは変わっていかないと思っています。</p>	<p>地域福祉支援計画は、とても網羅した内容で出来上がっていると思います。これからは、この計画一つ一つをどう実践に移していくかが問われると思います。それぞれのおかれた立場で何が出来何は出来ないのか話し合いながら、その人らしい居場所と出番があるあつたか信州の創造を実現したいと思います。</p>

<p>(ご自身の取組等を通じて)</p> <p>○現在取り組まれている活動の概要や、活動を通じて感じられている地域福祉の課題等について、御意見や御提案を自由記載願います。</p>	<p>(計画に関するご意見など)</p> <p>○今後、県の役割や市町村の取組、計画に盛り込むべき事項、現行計画に関することなど御意見や御提案を自由記載願います。</p>	
<p>4 佐藤 もも子</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活困窮者自立支援制度（まいさぼ）の主任相談支援員を、全国一斉に始まった当初（H27）から就任しています。コロナ禍を経て、相談増と複雑困難な相談に、地域に社会資源を求めて就労支援の仕組みづくりや相互互助的な取組などを推進してきました。しかし、それだけでは限界を感じ、生活困窮者や複合的な課題を持つ人の相談には、伴走型支援と地域づくりの視点を取り入れても、残る課題は多く、根本的な社会保障制度や社会福祉制度の転換期であると切実に感じます。</li> <li>・個別相談と地域づくりと一体的に行ってきましたが、現場のソーシャルワーカー(相談員)の身分保障は不十分で、まいさぼ東御や東御市社協でも、まいさぼに正規1名、地域福祉に正規2名だけで、あとはすべて嘱託職員です。精神的にも負荷が多い個別相談と総合的な力が試される地域づくりや地域福祉に携わる人材の保障をしっかりとしてほしいと思います。それと両輪で人材育成です。</li> <li>・例えばまいさぼで関わった事例が必ずしも地域住民支援と関りが持てず、個別相談と地域支援が分断され一体化して提供されていない。そこを繋ぐ人材が必要不可欠であるがどれだけ機能をしているのか疑問である。</li> <li>・重層的支援体制整備事業を実施することで、個別支援と地域支援が一体的に提供できる体制を整えられる可能性があると思う。しかし、重層的支援体制整備事業を導入するにあたり、市町村行政の庁内連携が大きな問題である。一人の人を支えるには福祉部署だけでは難しく、住宅、教育、労政、生活環境、収税などあらゆる多課が関わる必要がある。多機関連携とは、広くは地域住民や事業所をさすすが、それ以前に、庁内連携をもっと意識化して進めなければ、重層的支援…も円滑化は難しい。</li> </ul>	<p>&lt;前回計画について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4、1節、地域課題解決に向けた住民支え合い行動宣言は実体として実施されたか。</li> <li>・3年間、進捗状況を振り返る会議がなかった（開くように毎年の担当者に伝えるたが叶わず）今回は作った後の進捗管理を行いたい。</li> <li>・5、2節、4 住宅確保対策…公営住宅の担当部署と連携が十分できていたか。住生活基本計画との連動はしたか。→県庁内についても、同じ課題については、計画の段階からしっかりすり合わせをする必要がある。県庁内連携が必須であり、地域福祉課のニーズや動きについて、全庁を挙げて協力する体制を築く必要があるのではないか。</li> <li>・県社協の地域福祉支援計画との連動やその評価なども必要ではないか。</li> </ul> <p>&lt;今回計画について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重層的支援体制整備事業の完全実施（とくに市は100%を目指す）</li> <li>・福祉部門のニーズや課題について、庁内連携の強力な推進</li> <li>・公営住宅の充実（住まいに困っている人の為に機能できるよう）</li> <li>・ソーシャルワーク機能の強化とソーシャルワーカーの身分保障や働く環境の整備</li> <li>・コロナ禍で浮かび上がった生活困難層への取組み（外国籍など）</li> </ul>

<p>(ご自身の取組等を通じて)</p> <p>○現在取り組まれている活動の概要や、活動を通じて感じられている地域福祉の課題等について、御意見や御提案を自由記載願います。</p>	<p>(計画に関するご意見など)</p> <p>○今後、県の役割や市町村の取組、計画に盛り込むべき事項、現行計画に関することなど御意見や御提案を自由記載願います。</p>	
<p>5 澤柳 八千江</p>	<p>飯田市では令和3年4月から重層的支援体制整備事業に取り組んでいます。その担当者として福祉課重層的支援係長をしています。</p> <p>昨年4月に本庁舎内に「福祉まるごと相談窓口」を設置し、どのような相談も断らない相談支援を実施し、特に、ひきこもりの相談窓口として広報しているところです。相談対象は全市民ですので相談内容は多岐にわたり、対応が難しいケースが多くあります。中でもひきこもりへの対応はとても難しく、まずは家族、親族との関係性を築き、当事者と面談できるように進めています。また、ひきこもり家族学習会を実施することで、ひきこもりを抱えた家庭が表面化されるので、その機会をとらえて家庭訪問を実施するなど継続的に関わり続けています。一方、ひきこもりの家族についてどこにも相談したことがなく、支援に結び付いていないケースも多く見受けられます。また、小中学校で不登校となりそのまま家にひきこもっている方、また高校中退等で家居となった方への対応ができていない事は課題と感じます。</p> <p>重層事業では、地域共生社会の実現に向け、地域の力を借りようとしていますが、地域の人にとっては負担感があり、地域の方に支え合いの基盤の強化や見守り活動等の重要性、またそういう活動の一つ一つが地域共生社会に通じる、という意識付けをしていくことはとても難しいと感じています。</p> <p>民生委員の活動の意義を地域住民に広げていくことが出来ると地域共生社会に通じると思いますが、民生委員の改選で苦勞している状況がある、というのは、やはり負担感を感じているのだと思います。理想を高く掲げれば掲げるほど地域住民が負担感を感じると思うので、どのようにしたら負担感を軽くすることが出来るのか、を検討する必要があると感じています。</p>	<p>さまざまなサービスのうち、サービスを受けられる水準にないが、働けない、生活に支障がある、経済的に苦しんでいる等の人に具体的な支援があればいいと思います。高齢者でいうところの要支援としてできる支援のようなもの。特にメンタル不調、精神疾患で働けず、障害年金も受給できない場合の支援が相談対応をしている上で、とても苦慮しています。</p> <p>次期計画を策定するうえでは、SDGsに立った視点、支え合いマップと要配慮者マップとの関係の視点を取り入れるといいと思います。</p>

		(ご自身の取組等を通じて)	(計画に関するご意見など)
		○現在取り組まれている活動の概要や、活動を通じて感じられている地域福祉の課題等について、御意見や御提案を自由記載願います。	○今後、県の役割や市町村の取組、計画に盛り込むべき事項、現行計画に関することなど御意見や御提案を自由記載願います。
6	戸田 千登美	<p>シニア層を対象とする事業を実施していますが、「健康」「つながり」「居場所」への意識は高まっていると感じます。しかしコロナ禍の2~3年の間に、今まで参加していたものに参加しなくなり「出るのが億劫だ」という声を各地で多く聞きます（民生や福祉推進員、サロンを中心的に関わっている方々のワークショップや研修で）</p> <p>また、男性シニアの動きは少しずつではありますが主体的な動きが広がってきているような気がします。</p> <p>認知症予防、認知症になっても暮らせるいい気づき等のソーシャルインクルージョンの意識をもって、当事者性のある活動が少しずつではありますが、出てきていることも確かです。</p> <p>いずれにしても、機運づくりや活動の立ち上げ等地域福祉にはコーディネートをする人材の必要性を再認識しています。</p>	<p>意識づくり・ひとづくり・学びのばづくり・居場所づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民の営みに意味や価値があることを理解できる視点の学び</li> <li>・推進する側も住民とともに、対話を重ねる場づくり。</li> <li>・住民の力を信じ、対等に連携をすることで主体的な動きが生まれてくる。</li> <li>・地域での孤立対策、多様性を認める福祉教育と居場所づくりの連携</li> <li>・当事者意識をもてるようなワークショップ・学びの場</li> </ul>
7	永野 光昭	<p>○令和3年度より重層的支援体制整備事業の移行準備事業として取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月1日より相談窓口を立上げ、包括的な支援体制の構築。</li> <li>・相談支援等各事業の分担が課題。</li> </ul> <p>○地域社会へ参加することが地域福祉の第一歩</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化に伴い、一人暮らし世帯や高齢者世帯が増加することにより、社会へのつながりが希薄になっている。福祉サービスの未利用者やいききサロンに参加しない高齢者への取組の強化。</li> <li>・地域を支える人材確保が課題。</li> </ul> <p>○介護予防事業における見える化の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民を対象に通いの場等の活動実績データ等により、効果試算の分析を行う。</li> </ul>	<p>○重層的支援体制整備事業の推進。</p> <p>○住民サービスの向上につながるDXの推進。</p>

<p>(ご自身の取組等を通じて)</p> <p>○現在取り組まれている活動の概要や、活動を通じて感じられている地域福祉の課題等について、御意見や御提案を自由記載願います。</p>	<p>(計画に関するご意見など)</p> <p>○今後、県の役割や市町村の取組、計画に盛り込むべき事項、現行計画に関することなど御意見や御提案を自由記載願います。</p>	
<p>8 長峰 夏樹</p>	<p>○ 県計画に基づき、民間福祉関係100団体のアクションプランである「信州ふっころプラン」を推進、幅広い協働活動に取り組んでいます。</p> <p>○ 重点テーマ「「ともに生きる」を発信する」では、「みんなで取り組む福祉教育」の推進や「福祉・介護の仕事PR事業」に取り組んでいます。「福祉サイエンス」分野の開拓に可能性を感じています。</p> <p>○ 重点テーマ「ともに生きるを実践する」では、地域福祉コーディネーターの養成や生活困窮者等支援のため資源開発、福祉人材確保事業に取り組んでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢化や人口減少など地域が大きく変わっていくなかで、地域をこえた助け合いの仕組みが必要。</li> <li>・ 日常生活自立支援事業と成年後見制度について、増大するニーズへの対応方策。</li> <li>・ 中山間地では、高齢者人口が減少し在宅福祉サービスの維持が困難になるなかで今後の地域づくりに向けたビジョン的なもの。</li> </ul> <p>○ 重点テーマ「あんしん未来を創造する」では、防災福祉の推進や県域の公益活動の中間支援組織の立上げを目指しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「医療的ケア児家庭と給電車ボランティアつながり作り事業」「キッチンカー防災訓練」「社会的養護出身の若者自立支援プロジェクト」などの企画実施。</li> <li>・ 「広域フードパントリーむすびや」を拠点とした子ども若者応援プロジェクトの推進等</li> </ul>	<p>○ 介護予防・生活支援体制整備事業が、暮らしのなかの支え合いやこれまで取り組まれてきた地域福祉活動を応援する施策として十分に効果を発揮できるよう、県の関係部署が連携して市町村の取り組みを応援する枠組みを明記すべき。</p> <p>○ 居住支援や若者の自立支援、ひきこもり支援、多様な働き方の実現など分野横断の課題について、県や市町村の各部署や関係団体の役割、連携・協働の仕組みについて盛り込むべき。</p> <p>○ 社会福祉法人の公益事業や企業のSDGSを掲げた地域貢献活動が活発化しつつあるため、地域福祉推進における期待や行政としての推進方策を明記すべき。</p> <p>○ 災害に備えた地域づくりについては、個別避難計画の策定など福祉の期待が増しているが、元となる市町村防災計画の見直しが必要となるので、官民で推進する必要性を明記すべき</p>

<p>(ご自身の取組等を通じて)</p> <p>○現在取り組まれている活動の概要や、活動を通じて感じられている地域福祉の課題等について、御意見や御提案を自由記載願います。</p>	<p>(計画に関するご意見など)</p> <p>○今後、県の役割や市町村の取組、計画に盛り込むべき事項、現行計画に関することなど御意見や御提案を自由記載願います。</p>	
<p>9 堀田 直揮</p>	<p>駒ヶ根市と連携し、人生100年時代の地域づくりを見据えた、生涯活躍のまちづくりに取り組んでいます。世代、病気や障害の有無、国籍に関わらず地域に暮らす人が日常的に関わり合うことができる「ごちゃまぜ」の地域交流拠点を核に、暮らす人が機能し合い、元気になる地域づくりを目指しています。</p> <p>様々な人がそれぞれの理由で集うサードプレイスのような場でありながら、一人で来ても孤独ではない、繋がりや関りを感じられる場所づくりが取り組みのポイントとなっています。</p> <p>コロナ禍において、人がつながる機会が減少し、慣習的にあった寄合なども廃止されていく状況があるなかで、多様な人のサードプレイスを地域に作り出していくことがより一層重要になると考えています。</p>	<p>現計画にもある「ごちゃまぜ」の推進がより一層進められればと思います。</p> <p>「ごちゃまぜ」の場づくりは、コミュニティカフェやフリースペースなど様々な取り組みが為されていますが、持続可能な運営としていくためには、福祉機能等、経営を支える機能を持つことが重要です。</p> <p>「ごちゃまぜ」の場づくりを推進する福祉施設等の整備が優先的に進められる、または、事業者が取り組みやすくなるような計画にできるよう考えていきたいと思っています。</p>

		(ご自身の取組等を通じて)	(計画に関するご意見など)
		○現在取り組まれている活動の概要や、活動を通じて感じられている地域福祉の課題等について、御意見や御提案を自由記載願います。	○今後、県の役割や市町村の取組、計画に盛り込むべき事項、現行計画に関することなど御意見や御提案を自由記載願います。
10	横山 久美	<p>《当法人の活動内容》</p> <p>1.地域若者サポートステーション（長野労働局委託事業）：全国177箇所（県内4か所） 15歳～49歳までの就労をサポートするためのニート対策事業で、心理相談・キャリア相談・コミュニケーションやマナー・PC等のスキルアップセミナーや職場体験、就労トレーニング等を実施。サポステにより事業内容が若干異なる。</p> <p>2.中信子ども若者サポートネット（長野県委託事業）：中信地域の子ども・若者に関する相談の対応や居場所の提供、支援会議のコーディネートを行う。</p> <p>3.就労トレーニング事業：（一部塩尻市委託事業）市内4か所の企業で作業等を行い、生活リズムの改善や自信や体力の回復、就活を行う1か月半のプログラム事業</p> <p>4.CT開発事業（コミュニケーションツール）：「言わせ種」というコミュニケーションカードゲームを販売している。</p> <p>※当日事業概要を持参しますので、参照ください。</p> <p>《地域福祉の課題等》</p> <p>1.高齢引きこもりに対する支援プログラムが地域にない、又は少ない</p> <p>2.引きこもり支援の家庭訪問（アウトリーチ）が出来る人や機関が少ない</p> <p>3.民間団体の支援スキルが継続出来ない状況（後身を育てる金銭的余裕がないため、支援スキルが個人で終わってしまう。生業として雇用される状態の継続が必要）</p>	